コロナ禍の活動振り返り
～北九州市地域リハビリテーション支援センターを含めた当法人の取り組みから～

医療法人共和会　小倉リハビリテーション病院
地域リハビリテーション部
砂川尚也

はじめに

- 新型コロナウイルス感染症（COVID－19）…
  - ➢卒業式・入学式を経験できなかった子供達。
  - ➢マスクを求めてドラッグストアの開店を待つ休日。
  - ➢布マスクを作る材料も足りない。
  - ➢家族や友人と食事をすることも会うことも躊躇。
  - ➢受診さえも自粛してしまう高齢者。
  - ➢一日中、誰とも話さない一人暮らし。等々
- 未知のウイルスはこの約3年半、すべての人の生命と生活を脅かし、混乱の渦に巻き込んだ。
- 医療・介護・福祉の現場も大きく混乱した中、今回は当法人が行う地域リハビリテーション活動の振り返りを報告し、学びを共有したい。

北九州市の概要

九州と本州を結ぶ福岡県北九州市。関門海峡を挟んで山口県下関市と隣接する九州の玄関口。1963年に門司市、小倉市、戸畑市、八幡市、若松市が合併して誕生し、政令指定都市となる。

人口	923,948人
0～14歳	109,502人
15～64歳	524,699人
65歳以上	289,744人
高齢化率	31.36%

行政区別の高齢化率（住民基本台帳　令和5年3月末現在）
北九州市ホームページより抜粋

- 高齢化率は政令指定都市の中で最も高い
- 福岡県内（60市町村）では33番目に高い
- 高齢者数も減少傾向
- 高い人口減少率

本日の内容

- 当法人のコロナ禍前の活動状況
- コロナ禍の活動
- 活動の振り返りと学び
- 地域リハ支援センターの設置と今後の活動

本日の内容

- 当法人のコロナ禍前の活動状況
- コロナ禍の活動
- 活動の振り返りと学び
- 地域リハ支援センターの設置と今後の活動

当法人の支援体制

共和会地域包括ケア推進本部(2014年発足)

地域リハ・ケア活動推進部会

自助・互助活動推進部会

連携・ネットワーク推進部会

共和会プロボノ(職員ボランティア)

＋

専従　PT1名(北九州市事業担当)

2019年実績　延べ参加者　1960名　参加実人数　265名

プロボノ活動とは・・

各分野の専門家が、職業上持っている知識やスキルを無償提供して社会貢献するボランティア活動全般。また、それに参加する専門家自身。

【Wikipedia参照】

活動内容

地域リハ・ケア活動推進部会

北九州市内や福岡県北九州地区の自治体と連携した地域支援活動
〇福岡県　　介護予防支援センター業務
〇北九州市　　地域リハビリテーション支援センター業務、短期集中型予防サービスC通所型、訪問型、サロンで健康づくり(運動器)

自助・互助活動推進部会

共和会の利用者に限らず障害のある方々のその人らしい生活の支援活動
〇片麻痺患者の会「陽向」、若年障がい者の会「スマイル」、失語症の会「筍の会」、「はーとふりー下関」等

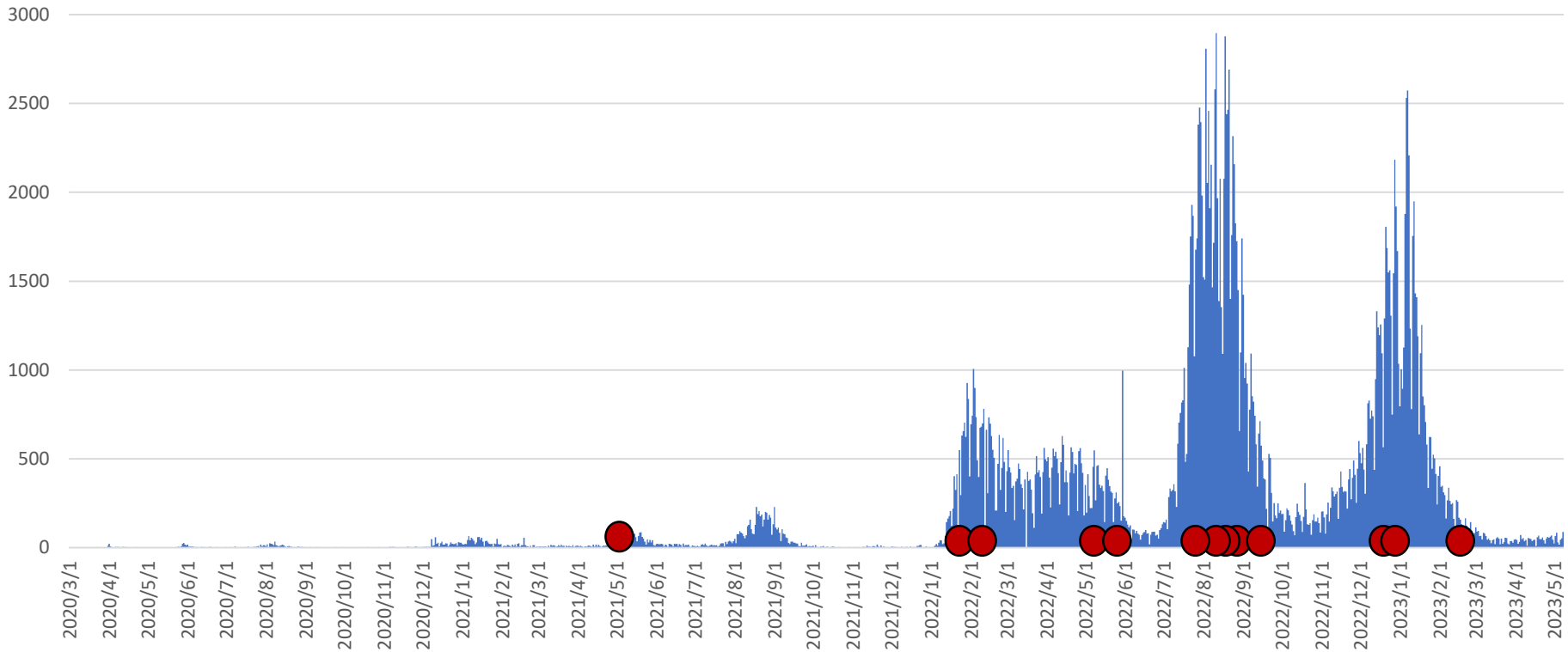
連携・ネットワーク活動推進部会

他施設、団体等と連携したネットワーク構築活動、啓発活動
〇校区民生員会議等、会議への参加
〇校区行事へ参加

本日の内容

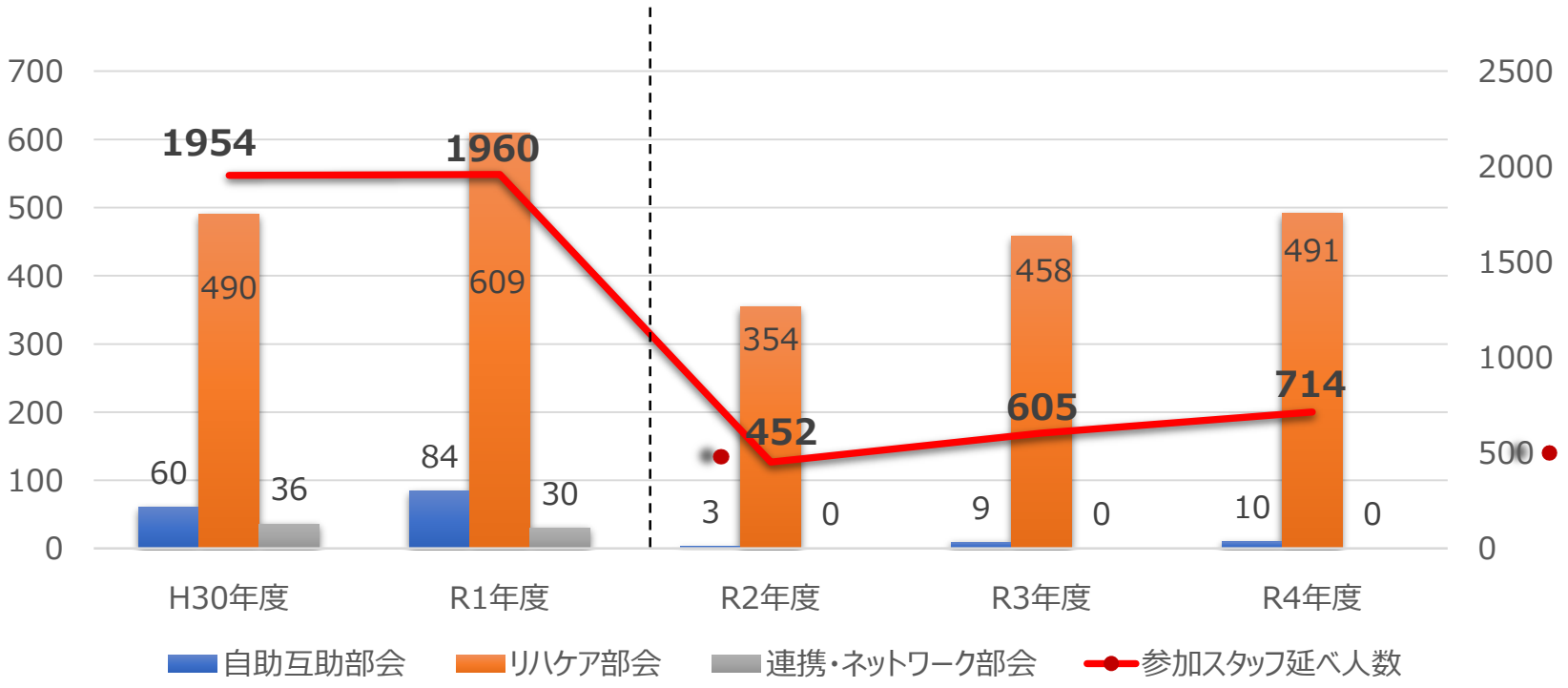
- 当法人のコロナ禍前の活動状況
- コロナ禍の活動
- 活動の振り返りと学び
- 地域リハ支援センターの設置と今後の活動

北九州市新型コロナウイルス感染者数の推移と法人内感染の状況(病棟等閉鎖を伴ったもの)



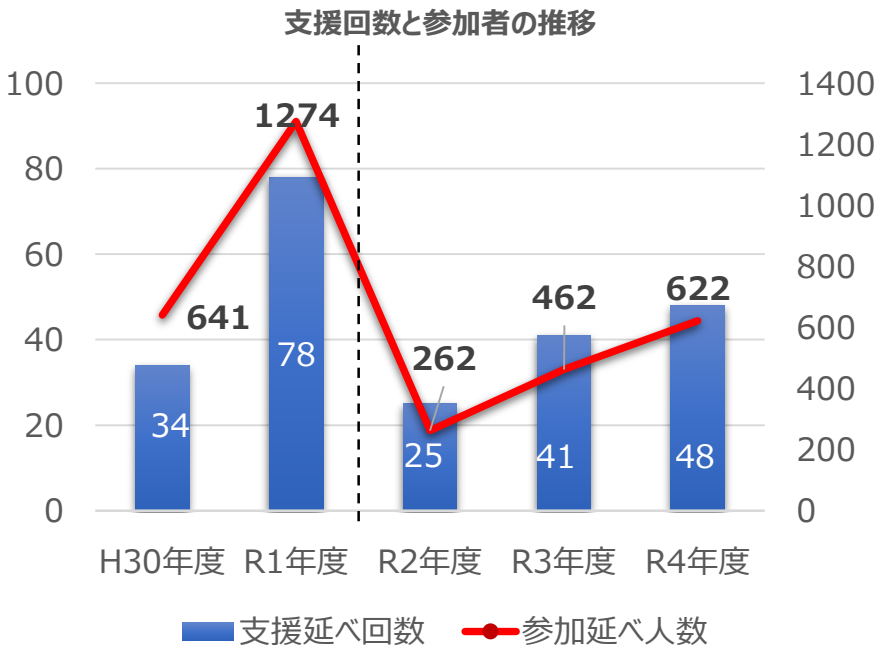
・北九州市の陽性者累計267,656人(R5.5.8時点)。
・当法人も病棟閉鎖を伴うクラスターを複数回経験した。

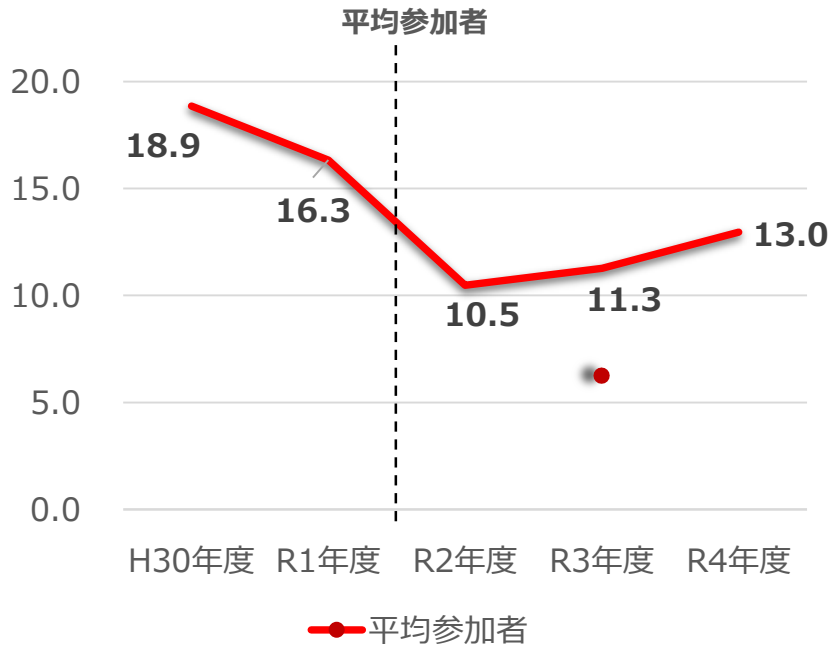
プロボノ活動への影響



- 令和2年度は緊急事態宣言や外出自粛の影響を受け集合形式の活動や会議等は中止。特に自助・互助活動推進部会と連携・ネットワーク推進部会の活動は大きく制限された。
- リハケア部会は自施設の感染症蔓延予防対策を取りながら、スタッフを限定し活動を継続した。

北九州市　通いの場支援への影響





- コロナ禍前後の実績は、支援回数は約1/3、参加延べ人数は1/5、1回の平均参加者は半分となった。
- 年度ごとに緩やかに増加しているが、R1年度の約半分程度にとどまっている。

- 当事業の申し込み件数で判断しづらいが、活動自体の減少も考えられる。
  →全体の状況把握ができていないことが課題
- サロン参加者の減少→参加者制限　自粛意識

リハビリテーション相談支援の変化

～2020年10月　地域リハ塾実践報告より～

○期間　2020年4月から9月

○対象者　規相談件数79件中、感染症に関連する相談15件(約2割)

　要支援１：４名、要支援: ８名、要介護２：１名、申請中: ２名

○サービスの利用状況(重複あり)

なし:9名、通所介護:2名、通所リハ：1名、訪問介護：1名、訪問リハ：1名、外来リハ:1名、入院中：1名　※ケアマネジャー新規介入9名

○相談内容の内訳(重複あり)

「身体機能評価に関すること」 13件、「運動方法や負担の少ない生活行為への助言」 10件、「自立支援に向けたケアプランに関すること」 9件の順で多かった。

1. 本人の自粛意識
2. 家族や友人との関係変化
3. サービス自体の中止
4. 事業所の自粛体制　新規利用者受け入れ自粛　退院前訪問自粛
5. 活動場所の自粛　サロン活動が閉鎖となった　友人との交流も自粛
6. コロナ禍でケアマネジャー新規介入

・本人の意識変化　・医療・介護・福祉サービスの混乱　・繋がりの変化

身体機能・生活機能の低下

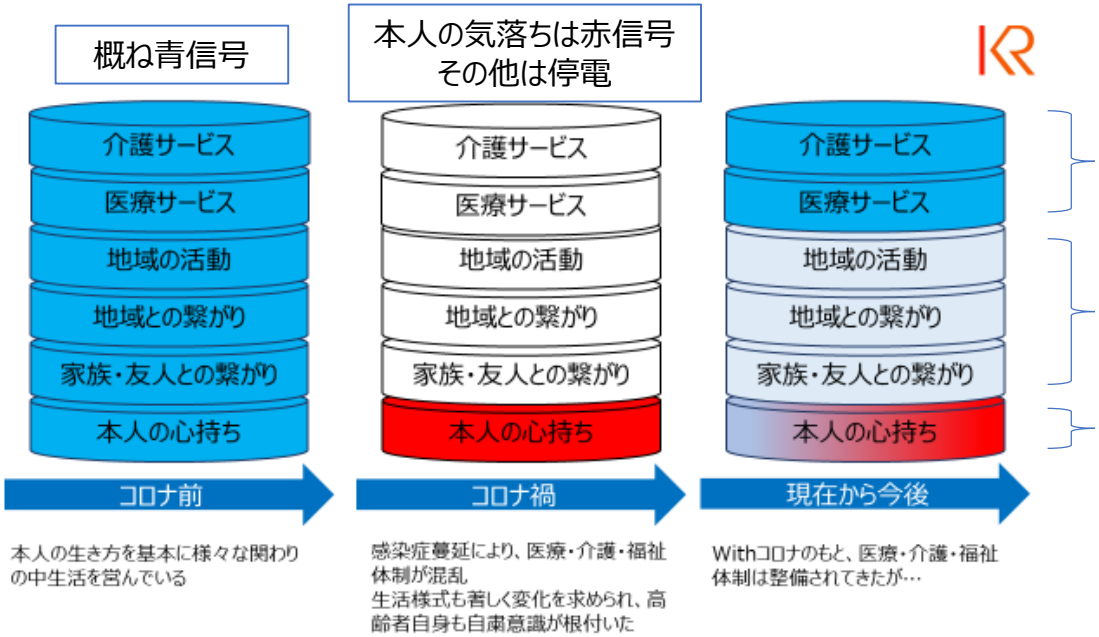
本日の内容

- 当法人のコロナ禍前の活動状況
- コロナ禍の活動
- 活動の振り返りと学び
- 地域リハ支援センターの設置と今後の活動

活動の振り返り

【住民への影響】

- 通いの場自体の減少や参加者減少(推測の範囲…)
- リハビリテーション相談事業の経過から、長引く活動制限や自粛意識から、身体機能・生活機能低下をきたし、新規申請やサービス利用へ移行する方もいた。



介護・医療サービスの体制は混乱はあったが青信号に戻った

地域活動、地域や家族・友人との繋がりは、青色が薄くなった？もしくは点滅？

赤と青のグラデーション　個人差あり

何らかの支援を受けていた事例は、サービス提供が再開されたことで、生活面の課題整理や対応が可能になったと思われる。
しかし、生活様式の変化で、自粛意識はバリアになる可能性も…
正しい知識と適切な対応を改めて啓発する必要性あり。（特にサービス利用のない方か？）

活動の振り返り

【関係者・自施設への影響】

- 通いの場への支援は、活動実態の把握まで実施できず、他の委託事業先や市関係部署との情報共有は不十分であった。(行政専門職も保健所の応援対応)
- 地域ケア個別会議や自助グループ等の支援はリモートを活用しながら活動を再開した。
- リハ相談の個別対応にて多職種と個別事例を検討する機会は維持できた。
- 自施設のプロボノ活動に関わるスタッフ限定したことから、地域に出向く機会が減った。
- 連携・ネットワーク推進部会については、コロナ禍前に積み重ねた関係団体との繋がりが希薄となった。

【学んだこと】

「有事を乗り切るためには、**平時から**地域の中で住民や関係機関との密な連携体制構築が重要」

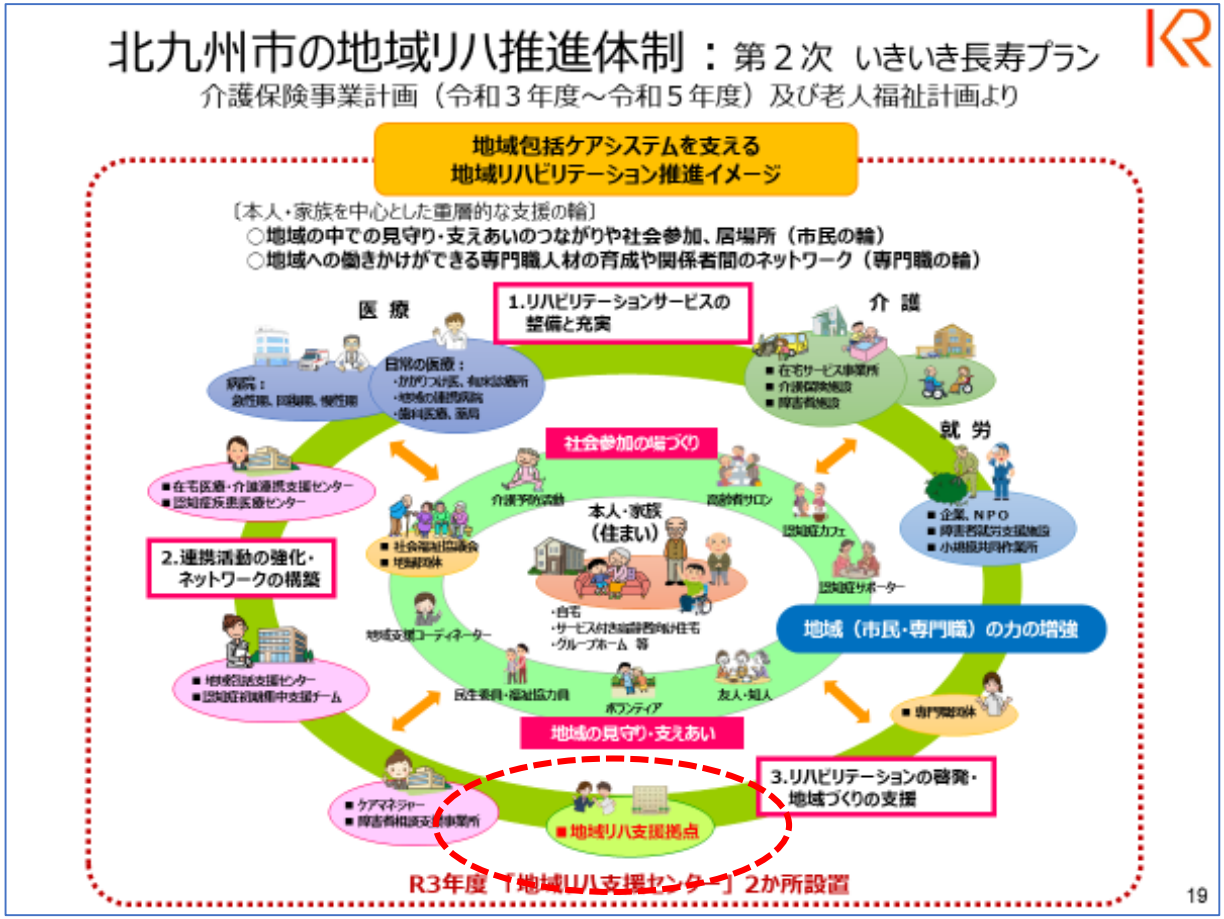
「地域リハ支援が途切れないように、自施設内や地域の**リハ専門職間の関係つくりやシステム構築が必要**」

本日の内容

- 当法人のコロナ禍前の活動状況
- コロナ禍の活動
- 活動の振り返りと学び
- 地域リハ支援センターの設置と今後の活動

北九州市　地域リハビリテーション支援センター設置

・市民のニーズに応じた質の高い相談支援を行うことができるよう、「地域リハビリテーション支援センター（支援拠点）」を設置し、医療機関及び介護サービス事業所等の協力を得て、リハビリテーションに関わる事業を一体的かつ効果的に実施するとともに、リハビリテーション関係者の連携強化の推進を図る。



地域での介護予防の取組の機能強化やリハビリテーションに関する相談支援の実施、リハビリテーション関係者のネットワークの構築等、リハビリテーションに係る各取組（地域リハビリテーション）が有機的に連携し、効果的かつ全市的な充実を図るためには、事業の一体的な実施が必要。

地域リハビリテーション支援センターの役割

リハビリテーションに関する相談支援

«リハビリテーション相談支援事業»

- 相談者のケアマネジメント力の向上及び利用者の自立支援を促進
- 質の高いケアマネジメントを実現できる環境整備に寄与

その人らしい暮らしの実現に向けた支援ができる人材の育成・活用

«地域ケア会議推進事業の一部・地域リハビリテーション連携推進事業»

- 専門職が地域の中で活動できる環境づくり

リハビリテーション関係者のネットワークづくり（区リハビリテーション連絡協議会の設置・運営支援）

«地域リハビリテーション連携推進事業»

- 医療・介護等の従事者が地域の中で連携・協働できる環境づくりを全市的に推進

地域における介護予防の取組の機能強化

«地域リハビリテーション活動支援事業»

- 住民主体の通いの場の取組を一層推進
- 地域における介護予防事業の一体的実施により、事業間の連携を図り、効果的かつ効率的に事業を実施

地域包括ケアシステム 及び 介護予防の充実・強化 へ貢献

まとめ

・北九州市の高齢化率や人口減少はシビアな状況。

・新型コロナウイルス感染症蔓延する中、介護保険事業計画（令和３年度～令和５年度）及び老人福祉計画において「地域包括ケアシステムを支える地域リハビリテーション推進イメージ」が示され、大きな転換期を迎えた。

・報告した経験を踏まえ、「地域への働きかけができる専門職人材の育成や関係者間のネットワーク(専門職の輪)」 を密にし、「地域の中での見守り・支えあいのつながりや社会参加、居場所（市民の輪）」へ貢献することを目標に、「北九州市地域リハビリテーション支援センター」の活動を進めていきたい。